

授業科目名・形態	精神看護学実習	実習	必修・選択の別	必修
担当者氏名	畠山 禮子・高山 新吾	開講期	3年前期・後期	単位数 2

【授業の主題】

精神に障害を持つ人との関わりを通して、病いの体験や生活の意味を知り、看護を必要とする患者およびその家族を総合的に理解し、状況に応じた援助方法を実際に学ぶ。また、精神医療保健チームの一員としての看護職者の役割、精神保健福祉法に基づく処遇について学ぶ。

【到達目標】

1. 精神に障害を持つ人の病態を知り、病いによって影響を受けている行動が理解できる。
2. 精神に障害を持つ人との関わりを通し、対人関係の重要性を理解できる。
3. 精神に障害を持つ人を疾病と障害を併せ持つ生活者として捉え、日常生活の援助方法が理解できる。
4. 病態の治療過程を理解し、求められている看護の役割を認識することができる。
5. 患者と家族、周囲の人間関係を理解し、社会復帰に関連した社会資源活用方法について理解できる。
6. 患者のライフステージや病期を理解し、病いの体験（不安・恐怖・苦痛など）を受け止め、日常生活への援助、治療過程（薬物療法・作業療法・レクリエーション療法・生活技能訓練など）への援助について理解できる。
7. 患者 - 看護者間の相互作用のなかで、自己洞察しながら、看護過程を展開することができる。

【授業計画・内容】

詳細は実習オリエンテーションで提示する。

【授業実施方法】

学外実習

【授業準備】

実習事前学習等については別紙で提示する。

【主な関連する科目】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」

【教科書等】

「病態治療学Ⅲ（精神疾患）」で使用したテキスト、

吉松和哉 小泉典章 川野雅資 編集 「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第6版 スーベルヒロカワ出版, 2015.

川野雅資 編集 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第6版 スーベルヒロカワ出版, 2015.

【参考文献】

随時資料配布

【成績評価方法】

実習状況（60%）、事前学習・実習記録等（40%）により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

科学的根拠をもち、これまでの知識・技術を実習で発揮しましょう。